2021
12-1月

はしかけニューズレター

2021年度　第5号　通巻162号　　2021年(令和3年)12月1日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員:中川・松岡)
住所:〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091　電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850
電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp　琵琶湖博物館ホームページ : https://www.biwahaku.jp

～ 目 次 ～

会員数 ・・・ 392人
グループ数　25グループ
(2021年11月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ
2. はしかけグループの活動報告と活動予定
(1) うおの会　(2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊　(5) 大津の岩石調査隊　(6) 温故写新
(7) くらしをつづる会　(8) 古琵琶湖発掘調査隊　(9) ザ！ディスカバはしかけ
(10) 里山の会　(11) 植物観察の会　(12) たんさいぼうの会　(13) 田んぼの生きもの調査グループ
(14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(17) びわたん　(18) ほねほねくらぶ　(19) 緑のくすり箱　(20) 虫架け　(21) 森人　(22) 琵琶湖梁山泊
(23) サロン de 湖流　(24) 水と暮らし研究会　(25) 海浜植物守りたい
3. 生活実験工房からのお知らせ
4. その他の事項

1. 事務局からのお知らせ

師走を迎え何かと慌ただしい時期となってまいりました。一年はあっという間ですね。

今年も新型コロナウィルス感染症に振り回された一年でしたが、少し明るい兆しも見えてまいりました。また、そのことを反映して、10、11 月は活動を再開されたグループも多く、今月のニューズレターは久しぶりに話題に溢れたものになりました。なかでも「びわたん」は 2020 年 2 月以来 1 年 9 か月ぶり、「ザ！ディスカバはしかけ」は 2020 年 1 月以来 1 年 10 か月ぶりの再開となりました。

長い休止期間の中で、会員の皆様にはモチベーションの維持にも苦労されていると思います。それでも、こうしてまた集まり、活動の再開をして頂いたことに感謝いたします。

会員の皆さまには、今後ともはしかけ活動を楽しみつつ、琵琶湖や琵琶湖地域の良さを発見し、多くの方に伝えてもらえたらと思っています。

■琵琶湖博物館開館 25 周年記念シンポジウム「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」を開催しました

10 月 23 日(土)に開館 25 周年記念シンポジウム「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」をオンラインで開催しました。このシンポジウムは、第三次中長期基本計画が始まるにあたり、琵琶湖博物館が、今後、地域の人びとがともに学びあえる博物館になるための、新たな博物館とのつきあい方やその仕組みを考えることを趣旨に実施したものです。シンポジウムには 145 人の参加者がありました。シンポジウムの成果として、第三次中長期基本計画のスタートラインについたこと、地域の人びとともに、琵琶湖博物館の今後の方向性や独自性を改めて考える機会となりました。また、開催にご協力頂きましたはしかけ会員の皆さまには、大変お世話になりました。ありがとうございました。

■ギャラリー展「琵琶湖の虹が映(ば)える理由(わけ)-湖の「なぜ」がわかる物理学-」について

琵琶湖地域で、実際に起こっている現象との関わりを、深く考察できるような内容を分かりやすく伝える展示を準備中です。期間は令和 4 年 1 月 4 日(火)～3 月 6 日(日)の予定です。ぜひご観覧ください。

■ギャラリー展「(森のギャラリー展)森へ行こう、森と生きよう」について

令和 4 年 6 月 5 日(日)の全国植樹祭の開催を記念して、森に興味を持ってもらうことをコンセプトに、森林および木材のすごさやよさを紹介する展示会です。期間は令和 4 年 3 月 20 日(日)～6 月 5 日(日)の予定です。こちらもぜひご観覧ください。

(中川　信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

(1) うおの会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 36 名 】

グループ代表アドレス： hashi-uonokai@biwahaku.jp　　グループ担当職員：田畑　諒一

【活動報告】

■10 月 17 日(日) 第 162 回定例調査 場所:野洲川 参加者:18 名

緊急事態宣言も解除され、久しぶりの定例調査となりました。今回は、水ロスポーツの森公園に集合、野洲川に散会、約 1 時間の調査後に観察会、解散と言う形で行われました。

未明の降雨の影響もあったのか、前日の夏のような気候とは打って変わって気温がグッと下がり、強風も相まって寒い中での調査となりました。気温より水温が 4～5℃高かったので、如何に急な冷え込みだったかがうかがえます。

18 名がそれぞれ散らばり、流速や底質も色々な場所で、14 種類、約 400 匹の魚を確認し、観察会を行い再放流。解散となった後も、川の中を覗き込み、水中撮影などでしばらく調査地に留まり、魚について議論を交わす光景が見られました。

その姿は、まるで子供のようでした。

(報告:澤田知之)

10/17　調査の様子

10/17　ヨシノボリ類

■11 月 21 日(日) 第 163 回定例調査　場所:大同川 参加者 18 名

東近江市を流れる大同川を調査しました。ここ数ヵ月の雨の少なさが川にも影響しており、水位が下がり、水の流れがなくなるほどでした。

五箇荘中央公園横の 3 地点で調査し、13 種の魚が確認できました。目視でしか確認できなかった魚種もあり、これだけ水位が下がっても逞しいなと思いました。

公園の横で調査していたため、周辺住民の方も見に来られて、賑やかな調査となりました。

(報告:中島財)

11/21　カワムツ、ヌマムツ両方がいました

【活動予定】

12 月 19 日が年内最後の調査です。

詳細はメールにてお知らせします。

(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 7 名 】

グループ代表アドレス： hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp　　グループ担当職員：橋本 道範

【活動報告】

■令和 3 年 11 月 17 日(水)　　場所:近江八幡市沖島 参加者:7 名

沖島厳島神社の弁財天

西国三十三所めぐりは観音巡礼の旅ですが、この中で滋賀県には石山寺、宝厳寺、長命寺、観音正寺の 4 カ寺の観音霊場がある。また、琵琶湖周辺には音楽・学問・水の神である弁財天が各所に祀られている。戦国武将の祈祷所として保護され、織田信長や豊臣秀吉も参詣した竹生島の宝厳寺は大弁財天が本尊で、千手観音を西国巡礼の札所本尊として祀っている。ここは古くから弁財天の霊場として信仰されてきた。琵琶湖の島である沖島と竹生島と安土町豊浦の福之島弁財天について報告する。

享保年間に天台寺院跡に再建されたお堂に水火風の災害と水難を避けるために安置された。

竹生島宝厳寺の大弁財天堂と本堂外陣に安置されている木造弁財天像。とぐろを巻いた白蛇を宇賀神を頭に乗せ武器を持つ一面八臂の宇賀弁財天である。日本三大弁天のひとつ。
（2018.7.2 撮影）

ここも宝厳寺と同様の一面八臂の宇賀弁財天を祀っている。毎年 4 月下旬に飯道山行者講による護摩供養が行われている。
（2019.4.21 撮影）

3 像とも一面八臂であるが沖島弁財天は宇賀神弁財天ではないが、水の神として船の往来の安全を守るものとして信仰されてきたものである。

【活動予定】
・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
・各寺院への訪問調査を進める。

（福野憲二）

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。

(3) 淡海スケッチの会

【 活動報告日の活動会員数（のべ） 3 名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp　　グループ担当職員：桝永 一宏

【活動報告】
■ 10 月 17 日（日） 参加者 3 名
曾根沼（彦根市）にてスケッチを行う。
■ 11 月 21 日（日）
坂本（大津市）でスケッチを行う予定でしたが、参加希望者が少なかったため延期しました。

【活動予定】
■12 月 19 日（日） 博物館内でミーティングおよびスケッチ。
2022 年の活動について話し合いをします。
訪れたい場所の資料がありましたらご持参いただけると幸いです。

集合場所 博物館正面玄関口
集合時間 10 時

※冬期活動予定
2022 年 1 月～3 月 博物館内で剥製等のスケッチを行います。

(4) 近江はたおり探検隊

【 活動報告日の活動会員数（のべ）13 名 】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp　　グループ担当職員：橋本道範

【活動報告】
■10 月 9 日（土） 参加者: 2 名
地機の機織り、綿の糸紡ぎなど。
■10 月 27 日（水） 参加者: 5 名
地機の機織り、綿の糸紡ぎなど。今回から織り手が交代しました。
■11 月 10 日（水） 参加者: 6 名
地機織り。オオムギをもらったので、ヒンメリ用に掃除をしました。
なかなか進まず。次回に持ち越しました。

地機織りのようす

【活動予定】
■織姫の会
11 月 27 日（土）、12 月 11 日（土）、22 日（水）、1 月 8 日（土）、26 日（水）、
2 月 9 日（水）、26 日（土）、3 月 9 日（水）、26 日（土）

（辻川智代）

(5) 大津の岩石調査隊

【 活動報告日の活動会員数(のべ)　1 名 】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp　　グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2021 年 10 月の活動

〇盛越川、三田川、相模川源流域の調査 (参加者 1 人)

日 時:2021 年 10 月 20 日(日)10:50～15:30

場 所:大津市の盛越川、三田川、相模川源流域

1. 調査の概要

6 月の大津市・盛越川、三田川源流域の調査で花崗斑岩、フェルサイト、細粒花崗岩が併存する岩脈、フエルサイトの新な露頭、巨大な石英ブロックの成因を検討した。一方、盛越川の最上流の支流の尾根下の末端部に白色の 3 層の地層があることを 2013 年に確認している。また三田川の源流域には細粒花崗岩の転石もあるとの情報もあるので、調査を進めた。足場の悪さ等で詳細な調査は出来なかったが、収穫の多い調査となった。

この地層の下は産総研の地図によれば花崗斑岩脈であると推定される。尾根の直下にどうしてこうした堆積層があるのか不思議である。もう少し調査を継続する。

2. 調査のポイント

A. 盛越川の尾根下の極細い谷川の崖面に土色の地層の間に白色系の 3 地層があることを再確認した。足場が悪いので露頭の調査は目視に留めた。後日、別途、調査をしたい。

B. 三田川の源流域に細粒花崗岩の転石を見つけた。既に、フェルサイトの露頭は確認している。三田川の源流域には花崗岩の露頭は確認されていない。今後、この調査も進めたい。

■今後の活動予定

〇12 月 11 日の勉強会

村上さん担当で、下記のとおり勉強会を行います。ご参加ください。

日時:2021 年 12 月 11 日(土)、13 時 30 分～16 時 00 分

場所:琵琶湖博物館 実習室1

内容:湖国もぐらの会の福井さんにお越しいただき、滋賀の鉱山跡についてお話をしていただきます。

福井さんは過去の記録から滋賀県内の鉱山跡を現地調査されています。その内容の一部は、琵琶湖博物館ブックレット『近江の平成雲根志』にまとめられています。勉強会には採集された岩石の一部も持ってきてくださいます。参加される方は 8 日までに村上までご連絡下さい。

(6) 温故写新　【 活動報告日の活動会員数(のべ)　9 名 】

グループ代表アドレス:hashi-onkosyasin@biwahaku.jp　グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■10 月 17 日(日) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原
都合により中止となりました。

■11 月 13 日(土) おでかけ撮影会 in 鳥居本・愛知川
参加者:9 名
約半年ぶりの活動となり、天気も良い中で撮影会が行われました。午前中は近江鉄道に乗り、鳥居本へ。旧中山道の宿場町の町並みを撮影しながら、少し山登りもして中山道随一の名勝であった摺針峠の望湖堂まで行きました。ここでは大橋コレクションの今昔写真も撮ることができ、少しずつ今昔写真集ができあがりつつあります。午後からは、愛知川の宿場町へ行き、旧宿場町の町並みなどを撮影し、丸一日の撮影を終えることができました。

【活動予定】

■12 月 5 日(日) おでかけ撮影会 in 坂本　10:00　京阪電車坂本比叡山口駅改札集合

(7) くらしをつづる会　【 活動報告日の活動会員数(のべ)　— 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp　グループ担当職員:大久保美香

【活動報告】　活動はありませんでした。

【活動予定】　未定です。

(8) 古琵琶湖発掘調査隊　【 活動報告日の活動会員数(のべ)　17 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp　グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト　第八次発掘調査」で採取された咽頭歯化石のクリーニング及び植物化石の観察
日時:10 月 17 日(日) 13:00～15:30
場所:琵琶湖博物館 実習室 1　参加者:5 名
活動内容:「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト　第八次発掘調査」で採取された咽頭歯化石のクリーニングを行いました。
新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、活動をなかなか行うことができませんでしたが、ようやくクリーニング作業に取り組むことができ、各自、顕微鏡を使って丁寧に作業を行いました。また、咽頭歯化石のクリーニング後は、第八次発掘調査で採取された植物化石の観察も行いました。植物化石の勉強をずっと続けているメンバー1 名が、勉強のために採取した、現生の植物の実などの標本を持ってきて形の特徴などを説明してくれました。その説明を聞きながら、他のメンバー達も植物化石と図鑑、標本を見比べ、植物化石の形状を確認しながら観察しました。

〔久しぶりの活動で、より集中して取り組みました〕

■イベント『【わくわく探検隊】 植物の化石を掘り出そう！』のお手伝い
日時:11 月 13 日(土) 13:00～15:00
場所:琵琶湖博物館 実習室 2・屋外展示 太古の森 周辺
参加者:4 名
活動内容:イベント『【わくわく探検隊】 植物の化石を掘り出そう！』に、古琵琶湖発掘調査隊もお手伝いとして参加しました。
古琵琶湖発掘調査隊は、一般参加の来館者の方々が、約 260 万年前の泥岩から植物化石のクリーニング体験をされる際のお手伝いをしました。

(写真は【わくわく探検隊】提供)

■粒度表作成のための土採集と化石林の観察
日時:11 月 14 日(日) 10:00～12:30
場所:滋賀県湖南市 野洲川 参加者:8 名
活動内容:地層の観察の際にあると便利な「粒度表」を作成するため、野洲川に土の採集に行きました。
この日の大きな目的の一つは『粒度表作成のための土の採集』ですが、この付近には、約 260 万年前の古琵琶湖層群の地層が露出しているため、その観察もあわせて行いました。
現地にて地層に沿って観察をしながら、地層の壁面の観察の担当、粒度表用の土の採集担当、化石の調査担当、この場所のその他の地点にどのような観察ポイントがあるか調査する担当など、メンバーそれぞれが役割に分かれて調査、作業を進めました。その後、現地にて各自が担当した分野について報告を行い、メンバー間で情報共有を行いました。
また、もう少し下流に移動し、担当学芸員の山川さんに解説をしていただきながら化石林の観察も行いました。水の流れによって削られてしまったり、風化してしまって形があまり残っていないものもありましたが、中にはしっかりと根を張っている様子がわかる樹根化石もありました。付近ではいくつかの樹根化石を観察することができました。
野洲川に露出している古琵琶湖層群の地層には多くの観察ポイントがありますが、地層の様子は、川の水で流されて浸食したり、崩れたり、風化や時の流れなどで徐々に変化し、時には観察できるポイントが失われてしまうこともあります。その意味においても、現在の古琵琶湖層群の地層の様子を記録していくことは、とても重要だと思われます。今回採集した土を用いて粒度表を作成し、今後の調査に役立てていければと考えています。

〔大きな露頭での土の採集・調査〕

〔しっかり根を張っている様子が観察できる樹根化石〕

【活動予定】
■粒度表作成に向けての採集した土の下準備、11 月 14 日の活動での調査の取りまとめなど
日時:12 月 5 日(日) 13:00～15:30
場所:琵琶湖博物館 実習室 1

(9) ザ！ディスカバはしかけ

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 1 名 】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp　　グループ担当職員:田畑 諒一

【活動報告】

■11 月 23 日(火・祝) 森のたからもの

(祝日のため、ディスカバリールームは閉室です)

コロナ禍で軒並みイベントが中止となっており、当初予定より一カ月遅くなりましたが、今年度初のイベントが開催できました。

今回のイベントでは屋外展示の森に「森のたからもの」を探しに行きました。見つけた「たからもの」にはキャプションをつけて、ディスカバリールーム前に展示を予定しています。

はしかけさんの参加は残念ながら日程が合わず、1 名のみの参加でしたが、寒空にも関わらずほぼ定員の合計 38 名の来館者が参加して、思い思いのたからものの展示を作ってくださいました。

【活動予定】

■12 月 18 日 昔のやり方でお手紙に"封"をしよう

(土曜日のため、ディスカバリールームは閉室です)

B 展示こだわり展示との関連イベントです。

展示室での担当学芸員の解説後、実際に室町時代の手紙の作法で、手紙を作ってみます。

コロナ禍の情勢次第等で変更の可能性があります。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひ ご参加ください。

(10) 里山の会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 22 名 】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp　　グループ担当職員:美濃部諭子

【活動報告】

■10 月 2 日(土) 秋の里山体験教室 下見 参加者 13 名

新型コロナウイルスの影響が心配でしたが、10 月は緊急事態宣言も明け、秋の里山体験教室も予定どおり開催できました。この日は翌週の本番に向けて、散策ルートの下見を行いました。春の散策ルートとは別のルートを散策しながら、秋の里山の風景を楽しみました。ドングリやアケビ、クリなど秋のものが見られましたが、今年はキノコの姿があまり見られませんでした。

はしかけの森に戻ってから本番での午後の活動内容の打合せを行いました。せっかく外で体を動かせるので午後からは里山整備と里山遊びをすることになりました。今年は体を動かす機会が少ない参加者が多いと思うので、里山遊びでよい案が出てよかったです。

■10 月 10 日(日) **秋の里山体験教室　本番**　参加者 34 名（一般申込者 25 名、会員 9 名）

本番当日、午前中は雲が多く天候が心配でしたが、午後からは晴れてきて秋の里山を満喫できました。春・夏に続き、今年度 3 回目の里山体験教室となり、参加者同士の距離も縮まりなごやかな雰囲気でした。

午前中の散策では実のなるものに興味を持つ参加者の方が多く、「これは食べられる？」という声が多く聞こえました。下見の時にはそれほど気がつかなかったですが、本番では参加者の方がアケビをたくさん見つけていました。子どもたちは初めてのアケビの味を気に入ったようで、散策の帰り道はアケビ探しのようになっていました。

午後は里山整備をした後、里山遊びをしました。里山整備で少し太めの雑木や竹を切って整備しましたが、太めの木は切りごたえがある分なかなか苦労しているようでした。伐採した木は適当な長さに切り、布も使って椅子を作りました。大きめだったり小さめだったり、みんな思い思いの椅子を作って楽しみました。最後は、ロープを使いブランコを作って遊びました。里山遊びをして、山にあるものでいろいろなことができることを発見してもらえたのではないでしょうか。椅子はみなさん気に入っていただけたようで、それぞれ持ち帰っておられました。

次回が今年度最後の里山体験教室になります。冬も無事開催できることを祈ります。

■11 月 6 日(土) **ハチの巣箱づくり**

中止

【活動予定】

■12 月 5 日（日）　和紙作り
■12 月 26 日（日）　凧作り凧あげ・昔遊び
■ 1 月 15 日（土）　里山体験教室(冬)下見
■ 1 月 23 日（日）　里山体験教室(冬)本番

(11) 植物観察の会

【 活動報告日の活動会員数(のべ)　11名 】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp　　グループ担当職員:芦谷 美奈子

新型コロナウイルスの感染状況もある程度おさまりを見せ、活動を再開。天候等の中止を含めて、1 月から定例会が出来ていなかったので、メンバーが集まっての活動は 11 ヶ月ぶりとなりました。

シラキやカエデの赤、シロモジの黄色、ウリハダカエデやコナラのオレンジ混じりの葉が、綺麗になってきました。

今年は、急激に朝夕の冷え込みが進んだためか、山々の紅葉も鮮やかな気がします。しかし、数日間の強風で山の高い所はカエデの葉などが吹き飛んでしまい、早くも冬の装いです。

【活動報告】

■　10 月　3 日（日）　**新型コロナウイルスの感染防止のため中止**　参加者　0 名
■　11 月　7 日（日）　**博物館周辺と樹冠トレイル**　参加者　11 名

久しぶりの定例会。　11 月ということもあり、朝は 9℃と冷え込みましたが、午後の活動始まりは 16℃。

街路樹のハナミズキの冬芽の大きさを見ながら出発。ヒナギキョウが咲いているのを見て、こんなに寒くなっていても咲く力があるのか？とビックリでした。

季節的にもちょうどいいので、いわゆる「どんぐり」を中心に見る予定だったので、先ずはスダジイ、アラカシ、マテバシイ（殻斗から離れた跡が凹んでいる）の実を拾いながら観察。アラカシはシラカシとの区別が付かないくらい葉が細いこともあり、そういうときは葉裏を見て確認することを教えてもらった（葉裏が有毛ならばアラカシ）。 メギ、ノイバラの実が真っ赤で目立つ中、早くもサザンカ（園芸種、本当はカンツバキという）が咲き始めている。

そのまま進み、コナラとイチイガシの殻斗や実を観察。イチイガシの実はいつ見ても面白い、ふわふわの帽子（殻斗）にてっぺんだけに薄茶色の毛を付けたドングリ、どうしても拾ってポケットに入れたくなるのは私だけではないようです。

樹冠トレイルに入る前に、３年前に植えてもらったツクバネガシとマテバシイを見て、ウラジロガシ（今年は沢山実を付けている）の葉と実（レモン型でウバメガシの実と似ていた）を観察。樹冠トレイルでは、目の高さでシイやシラカシの実の付き方、実の形を見ることが出来て、何度見てもやはり感激でした。植えてもらったトチノキも葉が色づいて半分落ちていましたが「早く大きくなって花を撮らせて～」と言いながら、この日の行程を終了。

最近は１人で歩いてばかりいたので、多くのメンバーと歩いたこの日は、植物を満喫できた気がして、久しぶりに楽しい嬉しいどんぐり拾いでした。

【今後の活動】

- 月に１回、**第１日曜日の午後**を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。
  外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定（しばらくは、密を避けるため、行いません）です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- **12 月 5 日（日）　持ち寄って観察　博物館の実習室　13:30～16:00 ごろ**
- **１月以降　未定　博物館周り、樹幹トレイルの観察など**
- **２月はお休み　その他、新型コロナウイルスの広がり状況や雪によってもお休みになることがあります。**

この活動に興味のある方は、メール（上記メールアドレス）にてご連絡ください　(^o^)/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。

(12) たんさいぼうの会

【 活動報告日の活動会員数(のべ)　22 名 】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp　　グループ担当職員　大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第 68 回総会を、10 月 16 日（土）19 時からオンラインで開催しました。10 名が参加しました。滞っている珪藻電子図鑑の改訂や、コロナ禍で先延ばしになっている、集まって行う行事の再開のタイミングなどについて話し合われました。

新型コロナウイルス感染症は収束しつつありますが、まだ終息にはほど遠く、集まっての活動を計画的に行うことが難しい状態が続いています。そこで、集まらなくてもできる活動をそれぞれに進めてきました。その成果として、会員の論文が次々と仕上がってきています。

たんさいぼうの会会員を主著者あるいは共著者とする論文が 2 本、11 月 3 日（水）に同時にオンライン出版されました。ともに日本珪藻学会が発行する Diatom に掲載された短報です。（下線がたんさいぼうの会会員）

Yoshida, K. & Ohtsuka, T. 2021. Diatom flora in indoor tanks breeding Japanese medaka, *Oryzias latipes*. Diatom **37**: 30–37.

大塚泰介・井上晴絵・洲澤多美枝・泉野央樹・西坂一成. 2021. *Cymbella distalebiseriata–liyangensis* 種複合体の日本からの出現. Diatom **37**: 28–31.

前者は屋内の水槽に発生し「茶ゴケ」などと呼ばれる珪藻を、初めて本格的に調査した研究報告です。近畿一円の家庭やペットショップなどに置かれた計 50 槽のメダカ水槽に付着していた珪藻を詳細に調査し、62 種の珪藻を見いだしまし

た。主著者の吉田恵史郎さんはペット用品の製造販売を営むジェックス株式会社で、水槽につく藻類の防除を研究していましたが、付着する藻類の種類によって必要な対策が異なることに気づいたので、珪藻の分類同定を学ぶためにたんさいぼうの会会員になり、これまで研究を積み重ねてきました。PDF をご希望の方は、吉田さん本人か、共著者である影の会長までご連絡ください。

後者は前回のニューズレターでも紹介した、2018 年に中国で新種記載されたばかりのクチビルケイソウの、日本からの初報告です。著者のうち 2 名はたんさいぼうの会会員で、泉野さんは天野川（琵琶湖流入河川）で採集したニホンイシガメの甲羅の上から、西坂さんは千種川（兵庫県西部を流れ瀬戸内海に注ぐ二級河川）中流域の早瀬の礫上から、それぞれ本種を見つけ、見慣れない珪藻がいるということで影の会長のところに同定相談に持ち込みました。その少し後、洲澤多美枝さん（河川生物研究所）が遠賀川水系八木山川（福岡県）からこれとほぼ同じと考えられる珪藻を発見し、「2018 年に中国で報告されたばかりの *Cymbella liyangensis* ではないか？」と当たりをつけた上で顕微鏡写真を送ってこられました。そこで私たちは今年 7 月から、この珪藻の研究を本格的に始めました。すると 3 つの産地から得られた標本は、*Cymbella distalebiseriata*（本種も 2018 年に中国から新種記載された）にも似ており、また産地間で形態に多少の違いが見られることが明らかになりました。そこで私たちは本分類群を *Cymbella distalebiseriata-liyangensis* 種複合体として報告しました。すでに本論文を読んだ珪藻関係者から、関東の河川を中心にあの川でも見た、この川でも見た、最近急に増えたが何の種類だろうと思っていた、などの反響があり、また海外からも PDF の請求が相次ぎました。反響を受けて、洲澤さんのご厚意により本論文をオープンアクセスにしました。以下のサイトからダウンロードできます。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/37/0/37_38/_pdf/-char/ja

さらにもう一本、藤ヶ鳴湿原の珪藻の論文が受理されています。

Mimura, T. & Ohtsuka, T. 2021. Diatoms of Fujiganaru Moor, a valley moor situated in the warm-temperate zone in Western Japan, Diatom **37** (in printing)

本論文は当初、短報として投稿されましたが、紆余曲折を経て原著（フルペーパー）として受理されました。今回は報告が長くなりましたので、詳細はまた次号で。

【活動予定】

たんさいぼうの会第 69 回総会を、1 月 15 日（土）に琵琶湖博物館研究交流室で行います。終了後は新年会の予定です。ただし新型コロナの感染状況によっては、総会はオンライン開催、新年会も中止とする場合があります。「たんさいぼうの会」に新たに参加したいという方は、グループ代表アドレスまでご一報ください。

安心して集まって活動ができるようになるまで、個人研究や面会によらない共同研究を進めていきます。次は「たんさいぼうの小さな旅」で採集した瀬田公園の珪藻について、同定まで完了していますので、早期の原稿完成を目指します。他にも個人研究として、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鉱質土壌湿地群の珪藻植生研究、曽根沼・野田沼（彦根市）の珪藻植生研究、千種川（兵庫県）の珪藻植生研究、黒沢湿原（徳島県）の珪藻植生研究などを進めていきます。

(13) 田んぼの生きもの調査グループ　【 活動報告日の活動会員数(のべ)　3 名 】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp　　グループ担当職員:鈴木 隆仁

日本国内で新型コロナウィルスに関連した肺炎の患者が初めて確認されてから 1 年 10 ヶ月余り．流行の波はようやく落ち着きを見せてきたようにも見えますが，まだまだ警戒は必要で，以前のような活動にはなかなか踏み出せないなぁ，と感じているのは，皆さんも同じなのではないかと思います．季節の方は一気に進んで，いつのまにか冬の気配．田んぼのエビ達と同じように，のんびり休眠していたいところですが，春に採取したカブトエビ類の卵を何とかしなければいけません．カブトエビ類がたくさんいた田んぼの土をもらってきて，春になって水を入れれば比較的簡単に孵化させられるとは思うのですが，そうすると，幼生を食い荒らすカイミジンコやら，他にも色々な生きものが同時に出てきて，実験になりません．コロナへの警戒が続

アメリカカブトエビの卵

実験装置

くこの秋から冬の時期は，個人個人での実験にピッタリと思って，水温管理ができる簡単な実験装置も自作してみたり，市販の飼育キットには水質改善用に石灰石が入っていたな，ということを思い出して飼育水を作り直してみたりと色々試してはいますが，人工環境での孵化と飼育の道のりは，ド素人にはなかなか厳しいようにも思えます．卵をお分けした皆さんのところではいかがでしょうか？

【活動報告】

・10 月 23 日　琵琶湖博物館 25 周年記念シンポジウムの第１部で，山川が『琵琶湖博物館「はしかけ制度」を利用した田んぼのエビ類の調査研究活動について』というタイトルの事例報告を行うとともに，第 3 部のオンラインディスカッションにパネリストとして参加しました．事前の打ち合わせも含めて，他の博物館の方々のお話も聞いていると，はしかけ制度を利用して，このような調査研究活動ができることは，本当に恵まれているなと感じたところです．

【活動予定】

最初にも書きましたように，カブトエビの卵の孵化実験を継続して行います．今回使っている卵は，採取後比較的短時間で乾燥させ，そのまま保管しています．実際の田んぼの土の状態を思い浮かべてみると，産卵後つぎの春まで乾燥したままということは考えにくく，水につかった状態と乾燥した状態を繰り返す中で，ある条件が整うと孵化するのではないかと思われます．色々想像力を働かせながら，気長に実験を進めていただければと考えています．

コロナ禍の状況も見ながら，実験の報告と今後の進め方を検討する会を，春までには開催したいと考えています．実施の目途が立ちましたら，会員の皆さまにメールで連絡します．

（山川　栄樹）

(14) タンポポ調査はしかけ　【 活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名 】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp　グループ担当職員:芦谷 美奈子

＜「タンポポ調査・西日本２０２０」終了＞

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本２０１５」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5 年に 1 度 2 年にわたって実施される広域調査ですが、 新型コロナウィルス対策により、「たんぽぽ調査・西日本２０２０」は 2021 年度まで延長になり、その調査も終了しました。現在最終的なデータまとめをしています。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから、今後活動の整理を進めており、グループとしては一度解散することも検討中です。これまで活動に参加いただいた方々には、データ集計が終わりましたら改めて連絡します。

(15) ちこあそ　【 活動報告日の活動会員数(のべ) 4 名 】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp　グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

◆緊急事態宣言があけて、9 月、10 月とちこあそが実施できました。

※今年度から、びわ博ホームページからのオンライン予約制となりました。

◆10 月の活動　10/20(水) 午前の部 5 組、午後の部 4 組の参加でした。

やっと開催できたちこあそ、2 か月ぶりにメンバーが集まりました。今日は、夏に植えた畑の収穫。草も伸び放題で、管理も出来ていませんでした。どうなってるかなぁと思いながら、子ども達や保護者の方と、土を掘り起こしてみると。。。小さな小さなサツマイモがコロコロと。子どもがスコップで掘り起こしたり、引っ張ったりするにはちょうど良い可愛いサイズ（可愛いと言えば言葉は良いのですが、だいぶ小さいサイズ）でした。ガチャコンポンプで水を出して洗ってもらいました。

◆11 月の活動　11/17(水)　午前の部　5 組、午後の部　4 組の参加でした。
　小春日和の気持ちいい日でした。虫たちもまだ冬じゃないなぁと飛び出して来て、バッタやカエル、チョウを追いかけました。工房裏の森を探検して落ち葉のカサカサ音と柔らかさを感じたり、ホワイトビーチで砂遊びをしたり、イチイガシのドングリを拾ったり、何をしても楽しく、みんなが笑顔でした。時折ガチャコンポンプ目当てにやって来る校外学習のお兄ちゃんお姉ちゃんもいて、とても賑やかな生活実験工房でした。

　ホームページからの事前予約制が 4 月から始まって、複数回参加される親子もおられるようになりました。少しずつちこあそメンバーにも、生活実験工房の自然にも慣れて、元気にお返事したり、年齢を言ってくれるようになりました。コロナ禍が収まって、マスク越しでもみんながつながって、ちこあそでほっこりしてくださる機会がずっと続くことを祈っています。

10 月　収穫した野菜を洗おう

10 月　ヤツデでウサギに変身

11 月　裏の森を探検

11 月バッタいるかな？虫取り

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しています。屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児がマスクをしたり、子ども同士の触れ合いを避けたりすることは難しいことを理解いただいて、大人は三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

WEBで、活動の様子を時々掲載しています。http://blog.goo.ne.jp/eco-macha　をご覧ください。

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで 2 か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
12 月	12 月 15 日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 12 月	午前の部 10:00-12:00、午後の部 12:00-14:00　各回定員 5 組 予約制です。びわ博ＨＰからお申し込みください。 毎月おおよそ第 3 水曜日に行っています。 　コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。
1 月	1 月 12 日(水) 10:00-14:00 今回は第 2 水曜日の開催です	ちこあそ 1 月	

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会　【 活動報告日の活動会員数(のべ)　9 名 】

グループ代表アドレス:hashi-bck@biwahaku.jp　　グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■　11 月　3 日(水)　参加者:9 名＋学芸員 2 名

　約1年ぶりに観察会を行いました。烏丸半島船着き場、博物館観察池、瀬田川のプランクトンサンプルを観察しました。

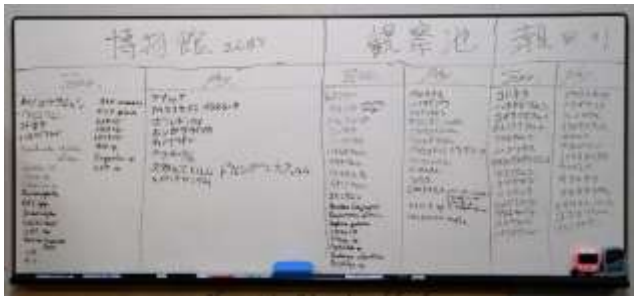
　今回は雄が生まれる卵を持ったハネウデワムシが見つかりました。ハネウデワムシの場合、雄が生まれる卵は雌が生まれる卵よりも小型です。

　ハネウデワムシ自体は琵琶湖ではよく見ることのできる種類です。

　しかし、普段ワムシは雌だけで単為生殖で増えており雄のワムシが現れることは稀です。

　また、雄のワムシは雌と姿が違ううえ、小さいことから気付くのは困難です。

　他にも3種のネコゼミジンコなどいろいろなプランクトンが観察できました。

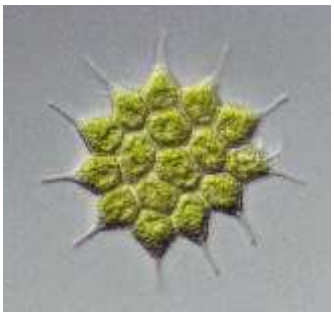


今回見ることが出来たプランクトン

採集の様子

ゾウミジンコモドキ

ヒメネコゼミジンコ



クンショウモ

マロモナス

ニセカメノコウワムシ

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。

(17) びわたん

【 活動報告日の活動会員数(のべ)　5 名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp　　グループ担当職員:安達克紀・由良嘉基

【活動報告】

■ 11 月 13 日(土)　　**「植物化石を掘り出そう！」**

参加者 : 一般 25 名 はしかけ会員 9 名 (古琵琶湖発掘調隊 4 名、びわたん 5 名)、学芸員 3 名

今回のわくたんは、古琵琶湖発掘調査隊担当学芸員の山川さんに来ていただきました。はじめに山川さんから、植物はいろんな部分に分かれて化石になり、花粉や樹根、葉や球果などを化石として見つけることができること、また化石のでき方について教えてもらいました。屋外展示の太古の森では、生きている化石として有名なメタセコイヤやスイショウを目の前に、葉のつき方の説明を聞き、実際に球果を手に取って観察しました。説明を聞いた後で植物を手にとると、大昔の植物に触れているという実感がわいてきます。再び実習室に戻り、古琵琶湖発掘調査隊のみなさんからアドバイスをもらいながら、野洲川河原の古琵琶湖層群甲賀層から採取してきた約 260 万年前の地層の一部分を、ピンセットでクリーニングしました。出てきた化石を見て大人も子供も大喜び。掘り出した化石は世界に 1 つしかないことも教わって感動し、大切に化石を持ち帰りました。参加者の中には、クリーニングの続きを家でするため、土のかたまりごと持って帰る方もいました。久しぶりのわくわく探検隊の開催、そして植物化石を掘り出すという貴重な体験ができる回ということもあり、参加者もスタッフも大変楽しかったです。

(よっちゃん)

【活動予定】

■ 12 月 11 日 (土)
「綿に触れてみよう！」

■ 1 月　8 日 (土)
「昔の地図から琵琶湖を知ろう！」

(18) ほねほねくらぶ

【 活動報告日の活動会員数(のべ)　9 名 】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp　　グループ担当職員:松岡由子・中川信次

【活動報告】

■ 10 月 10 日(日)　参加者: 2 名
タヌキの徐肉を行いました。

■ 10 月 23 日(土)　参加者: 3 名
タヌキの徐肉、オオバンの徐肉、ウサギの骨のクリーニングを行いました。

■ 10 月 31 日(日)　参加者: 1 名
タヌキの徐肉、イタチの徐肉、鳥の骨のクリーニングを行いました。

■ 11 月 14 日(日)　参加者: 3 名
ハクビシンの解剖、イタチの徐肉を行いました。
今回から滋賀県の感染ステージの緩和に伴い、一日を通して活動ができるように活動時間を変更させていただきました。活動時間を短縮しての活動、活動自体の休止などをこの 1 年半ほど行ってまいりましたが、久々に丸一日を使っての活動となり、以前のペースがすっかり分らなくなっていて、以前の様子を思い出しながらの活動となりました。
まだまだ人数制限など感染症対策をしっかりと行いながらの活動ですが、少しだけ以前の生活に近づいた様で嬉しく思います。

▲上キツネ、下ハクビシンの前足の様子
ハクビシンの前足はタヌキやキツネより、しっかりと物がつかめそうに見えます。

【活動予定】

・12 月、1 月の活動予定日は現在未定ですが、
月に 2、3 回の活動を予定しております。

(19) 緑のくすり箱

【 活動報告日の活動会員数(のべ)　7 名 】

グループ代表アドレス:hashi-midori-k@biwahaku.jp　　グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■10 月 16 日(土)　参加者: 7 名
活動内容:発酵食品の勉強会(生活実験工房にて開催)

9 月に緊急事態宣言が出て出来なかった「発酵食品の勉強会」を開催しました。
酒やパン、味噌や醤油、乳製品など私たちの食事には発酵食品が沢山ありますが、発酵のしくみや発酵にかかわっている菌について、深く学ぶという趣旨で話し合いを行いました。今までの活動のように、何かを作るわけでもなく、メンバー同士で知識の交流を行ったり、本や資料を読んで一緒に学んだりといった会になりましたが、とても楽しく興味深い活動でした。

(内容)
・「発酵」と「腐敗」の違いの話
・発酵にかかわる微生物の種類の話
・花やハーブの酵母と香りの関係性の話
・天然酵母パンの酵母エキス作りの作り方
・カットしたりんごとすりおろしりんごの糖度と発酵の違い
・麹を使ったもの、甘酒、塩麹、醤油麹の作り方
・納豆菌はわら以外にもついている?
・ぬか漬けはまぜる人によって味が変わる話
・柑橘類の皮にも酵母はいるのか?

【 感想 】
・みなさんの色々なお話が聞けて、大変勉強になりました。そして楽しかったです。
・今日は楽しい討論会でした。甘酒の作り方からそれぞれ違いましたね。何でも奥深く沢山の情報を頂きました。
・琵琶湖博物館の周辺だけに潜む酵母菌がいたら面白いなあ。

【活動予定】
・11 月 24 日(水) 10:30 草木染め 場所:実習室 2 で開催します。

(20) 虫架け

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 7 名 】

グループ代表アドレス:hashi-mushikake@biwahaku.jp　　グループ担当職員:八尋 克郎

【活動報告】
■ 11 月 21 日 (日) 9 時 30 分～12 時 30 分　参加者 : 7 名　場所 : 琵琶湖博物館 生活実験工房周辺
琵琶湖博物館行事「秋の生き物を探そう」のサポート
一般の方 6 家族 19 人が参加し、生活実験工房周辺で木の中や土の中の昆虫を探し、吸虫管で採集して頂きました。
また採集後、実体顕微鏡を用いて採集した昆虫の細部を観察しました。
木の中・土の中ではジュンサイハムシやクロハナカメムシなどが観察でき、一般の方からは「普段あまり見ない小さな虫が多くいて面白かった」「わかりやすくてよかった」といった感想が聞かれました。
新型コロナウイルスの影響で約 1 年ぶりの活動となりましたが、有意義な活動ができました。

また、引き続き「虫架け通信」を発行しました

LBM 玄葉けグループ
虫架け通信 No.36

連絡

昆虫豆知識

記録・短報

最後に

LBM 玄葉けグループ
虫架け通信 No.37

連絡

昆虫豆知識

LBM 虫日記

記録・短報

最後に

LBM 玄葉けグループ
虫架け通信 No.38

連絡

昆虫豆知識

LBM 虫日記

記録・短報

最後に

【活動予定】

新型コロナウィルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば１か月に１回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。（文責：梶田）

(21) 森人(もりひと)　【活動報告日の活動会員数(のべ) 14 名 】

グループ代表アドレス:　hashi-morihito@biwahaku.jp　グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■10 月 9 日(土)10:00～12:30　参加者:(会員)6 名 (博物館職員)林

内容:近江富士花緑公園の植物園で、植物観察会を実施した。秋晴れに恵まれ園内を観察モードでゆっくり歩いたため、全体は回れず次回の楽しみとしたい。野山ではあまりお目にかからないものもたくさんあり、間近で見ることができた。バラやラベンダーなどの花が見られたが、やはり秋はウメモドキ、ツノハシバミ、ナツメ、イイギリなどの実を付けている樹木が目立った。その他の観察した樹木はミツデカエデ、トサミズキ、トウカエデ、カラコギカエデ、イヌシデ、アカシデ、ウバメガシ、アオギリ、スズカケノキ、アオモジ、テンダイウヤク、ニッケイ、シキミ、ムクロジ、モッコク、ヤチダモ、ボダイジュ、シナヒイラギ、コメツガ、ウツクシマツ、ダイオウショウなど。草本は園内ではきれいに草刈りがされていてキツネノマゴやスミレくらいしか目立たず、草刈りがされていない水路では大きな葉のスミレ(ツボスミレ？)、ヌカキビ、ミゾソバなどが見られた。

■10 月 23 日(土)10:00～12:30　参加者:(会員)4 名

内容:びわこ文化公園で植物観察会を実施した。 好天にめぐまれた公園はいろいろな樹木の実りと一部のモミジ、スズカケノキ、アメリカフウ、サクラなどの紅(黄)葉が始まっていた。シラカシ、アラカシ、スダジイ、ナツツバキ、スズカケノキ、ヒロハハナヤスリ類、イスノキ、クヌギ、カヤ、シデ類、カクレミノ、エンジュ、イヌエンジュ、ハリエンジュ、フユノハナワラビ、サワラ、ヤマウルシ、ミヤマガマズミ、フユイチゴ、サルトリイバラ、ツクバネウツギ、ソヨゴ、ヤマボウシ、カマツカ、クロミノニシゴリ、ズミ、モッコクなどが間近で観察できた。

■11 月 13 日(土)10:00～12:30　参加者:(会員)4 名 (博物館職員)林

内容:みなくち子どもの森で植物観察会を実施した。 メタセコイアとヌマスギの黄葉がみごとな駐車場に集合し、周遊道路を大谷池→西尾根の小径→森の広場→草沢池→駐車場のコースで歩いた。

たんぼ、湿地、池などがある里山らしく多くの植物が観察できたため、予定を 1 時間もオーバーした。花を咲かせていた植物は野菊類、イヌホウズキ、セイタカアワダチソウ、ハコベ、ハキダメギク、ツリガネニンジン、リンドウ、アザミ類、ゲンノショウコ、キツコウハグマ、シロダモなど。実を付けていた植物はウメモドキ、ムクノキ、タカノツメ、ムラサキシキブ、カラスウリ、ツルリンドウ、スズメウリ、フユイチゴなど。その他ヤマハゼの紅葉、フサザクラの葉と冬芽、アズキナシの葉と実、ツクバネガシ又はアカガシ(同定できず)、イヌタヌキモを見ることができた。

【今後の予定】

■11 月 27 日(土)　10:00～12:30　内容:太古の森周辺のつる植物伐採　　集合:職員駐車場

■12 月 11 日(土)　10:00～12:30　内容:樹冠トレイル周辺のつる植物伐採　集合:職員駐車場

■ 1 月 8 日(土)　内容は未定

(22) 琵琶湖梁山泊　【活動報告日の活動会員数(のべ)　0　名 】

グループ代表アドレス:　hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp　グループ担当職員:中井 克樹

【活動報告】

全国的に新型コロナウイルス感染の第 5 波が収束しつつあり、対策強化により制限されていた 9 月までの諸活動が、10 月以降、いろいろと配慮をしながら実施されてきている状況で、専門的な知識のある学芸員との質問のやり取りも継続しています。今後の活動が進むことに期待しています。

【活動予定】

科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であり、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために配慮をしながら、それぞれの学校での活動を進めている状況です。博物館としては、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってくれればと考えています。

(23) サロン de 湖流　【活動報告日の活動会員数(のべ)　2名 】

グループ代表アドレス:　hashi-salondekoryu@biwahaku.jp　グループ担当職員:戸田 孝

【活動報告】

■ 10 月 9 日(土)ギャラリー展示に向けての検討

場所:メーリングリスト上での議論

参加者:不定(メーリングリストのため)

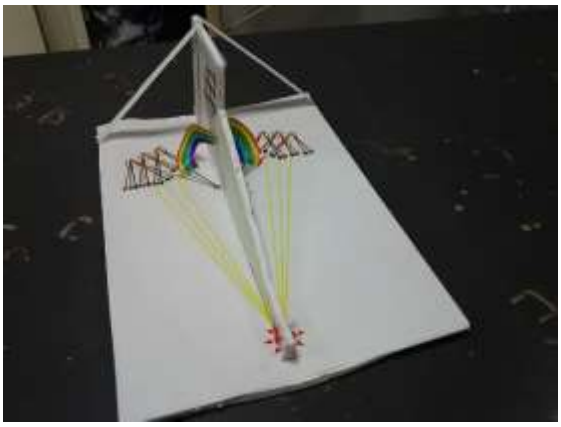
対面での参集を計画しましたが担当学芸員だけの出席となったので、予定していた場で担当学芸員が2つの実験装置(滋賀県立大学から借用した回転実験台、舞鶴工業高等専門学校から借用した津波再現水槽)を試用し、その様子を報告して意見を求めました。

■ 11 月 18 日(土)ギャラリー展示に向けての検討

場所:メーリングリスト上での議論

参加者:不定(メーリングリストのため)

対面での参集を計画しましたが担当学芸員だけの出席となったので、予定していた場で担当学芸員が「虹の説明図」を立体化して説明模型にすることを試み、その成果を報告して意見を求めました。



■ 11 月 19 日(日)14:00～14:30 ギャラリー展示に向けての検討

場所:オンライン開催(Zoom)

参加者:2 名 (はしかけ 1 名 学芸員 1 名)

前日 18 日の成果に基づいて、今後の方針について議論しました。

【活動予定】

原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つ方針は従来通りですが、オンラインでの開催も積極的に進めて行こうと考えています。

（24）水と暮らし研究会　【活動報告日の活動会員数（のべ） 13 名 】

グループ代表アドレス:　hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp　グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 10 月 1 日（金） 10:00-11:30 参加者 3 名

①活動先: 野洲市歴史民俗博物館

②調査目的 :

前回に引き続き祇王井川の調査の一環として、野洲市歴史民俗博物館で開催中の郷土史「朝鮮人街道をたどる―絵図からみた街並みの変貌―」の展示を同館学芸員より説明を受け、当時の周辺事情を聴取した。

③調査要旨:(知り得た事柄として)

1) 朝鮮通信使とは

江戸時代、朝鮮通信使は 400-500 人規模の大使節団であり、一団には文人、書家、画家なども含まれ友好善隣の文化の交流をも目的とした使節であり、江戸の徳川将軍への拝謁をした。当守山宿東門院で宿泊し、翌日、野洲の村々を通り抜けた。特に永原村の一角には「おもてなし」の臨時の茶屋が設けられた。街道筋では事前に街道の清掃、並木の植え替え、橋掛け、人馬の手配など経費の負担が多くのしかかったのも事実である。

2) 中山道と朝鮮人街道

中山道は、江戸時代に整備された五街道の一つ、原形は古代の「東山道」にあったといわれる。野洲は、守山宿と武佐宿の間に位置し人々の往来も多く要人の通行もあった。江戸時代、野洲川には橋がかけられておらず仮橋を設けるため地元の野洲村はもちろん、付近の村々も「橋懸役（はしかけやく）」の負担を強いられた。

朝鮮人街道は、野洲市小篠原で中山道から分岐し、近江八幡や彦根の城下町を通り、鳥居本で再び合流する。その名は、江戸時代に朝鮮通信使が通ったことに由来する。

「朝鮮人街道」という名が定着するのは江戸時代後期以降といわれている。なお、江戸時代を通じて、朝鮮通信使は街道を 10 回往復したが、野洲に残る史料には「八まんみち」や「八幡海道」と八幡へつづく道とみられていたことが分かる。小篠原地先にある中山道との分岐点で、左手の朝鮮人街道へと進む。かって、この分岐点には「右　中山道」「左　八まんみ（ち）」と刻まれた享保 4 年（1719）の道標と、真宗木辺派本山錦織寺（きんしょくじ）への道標が並んで建っていた。道標は現在、蓮照寺（れんしょうじ）（行畑）境内に移され保管されている。中山道との分岐点付近では、朝鮮人街道にのみ松並木が植えられ、祇王井（川）とともに道を見分ける目印となった。街道沿いには、野洲郡役所（現ザウルス公園）や一里塚もあったが、現在は松並木とともにその面影は失われている。

3) 鉄道と久野部村

明治 22 年（1889）、東海道湖東線が開通し旅客や貨物を運ぶ汽車が通過した。明治 24 年 6 月には停車場となる野洲駅が誕生したが当初は乗降客も多くはなかった。鉄道線路の設営により、久野部村の南で朝鮮人街道は分断された。また、現在では JR 琵琶湖線を越える陸橋が建設され住宅地もひろがり、街並みは大きく変貌してしまった。.

4) 川である家棟川（やのむねがわ）について。

古くから往来が盛んであった朝鮮人街道であるが、平らで歩きやすい道ばかりではない。冨波新町村と永原村の境界には旧家棟川が流れていた。その名の通り、家の棟ほど高くなった天井川で、現在の祇王駐在所前の交差点付近で街道と十文字に交わった。通行人は、天井川特有の高く築かれた堤防を越える必要があった。12 代将軍徳川家茂の上洛時には、永原村と新町村が輿（こし）でお通りに苦慮する様が史料にみえる。明治 26 年（1893）には「義王隧道」ができ、たやすく往来できるようになったが、河川の付け替えによって昭和 22 年（1947）に撤去され、コミセンぎおうに銘板のみが残されている。

5) 道筋の低湿地帯(高木村と上屋村の境界一帯)

朝鮮人街道の脇道であり、この脇を通り抜けるため、通行に支障が出ることもあった。排水に苦労していた高木村と小南村は、古くから悪水抜きの争論を繰り広げていた。そこで明治 17 年（1884）に、高木村の橋本五郎兵衛と中村七郎、小南村の岡野彌平らが中心となり、排水路を付ける大規模工事を進めた。深澤の低湿地は良田に生まれ変わり、数百年に及ぶ悪水争論にも終止符が打たれた。

＜参考資料＞

朝鮮人街道の現在の野洲市内での街道筋の変遷については、野洲市歴史民俗博物館　市誌編纂室「野洲市 市史編さんだより」第 50 号 通巻 88 号 令和 3 年 9 月を参考とした。

■ 10 月 7 日（木）　9：30-12：00　参加者　5 名

①活動先：　野洲市、守山市

②調査目的：

前回に引き続き祇王井川の調査の一環として、祇王井川の流路確認調査の 3 回目を行なった。範囲は生和神社付近から冨波乙地区内。また、守山市内の三津川湧水、赤野井地区の湧水と旧赤野井集落の水路の現地確認も行なった。

③調査要旨：

1）祇王井川の流路を冨波乙地区内生和神社付近から冨波甲地区入口までを徒歩で確認した。

冨波乙　生和神社の森の東側を流れる祇王井川は川巾 2m 程度、水深 20～30cm 程度で神社の対岸側は石垣積みになっている。途中に小さい石橋が渡っていたり、石の階段で川面に降りる「かわと」も残っている。

□生和神社境内

□残存する「かわと」

□東西分岐の表示

生和神社の森　東北の角で分岐して東祇王井川は冨波乙地区を朝鮮人街道に沿うように冨波甲地区の方向に向かう。現在は冨波乙地区内では家並の裏を流れて朝鮮人街道を一部地下暗渠で流れ冨波甲入口付近を北へ進む。この後　東祇王井川は永原地区　屋棟神社方面へ流れる。一方　西方向へ分岐した西祇王井川は 2 つの流路に分かれながら　一旦　中の池川へ合流したあと、童子川を経由して新家棟川へ流入する。

□冨波案内板

□朝鮮人街道の家並

□東祇王井川　冨波乙

2）守山市三津川公園のポンプアップ湧水

守山市東門院の西側で一本の河川を分水石で 3 本に分け、下流へ約 400m 並行して流れている。元は野洲川の伏流水を利用した重要な水源であったようだ。金森村と三宅村の水争いに奉行の裁定があり、川巾や深さを定めた「定石」を川床に一定間隔に設置して水量を分割した水利遺跡で全国的でも珍しいとのことである。今も上流からの水量に加えて、公園内の中央の深井戸からポンプアップした水が水系に合流している。梅花藻が花を咲かせ、番の鴨が水草をついばんでいた。のどかな風景である。

3）玉津・小津漁協事務所敷地脇の湧水

県道赤野井守山線　赤野井湾に向かう途中の小津漁協事務所脇のピットから少量であるが湧出していた。付近は小さな船着き場であり、少し金気がありそうで周辺部分が茶褐色であった。

4）赤野井集落の様子

前頁 3）の湧水訪問後、赤野井町を現地見学した。湖岸の赤野井湾から大庄屋諏訪家屋敷へと続く水路の途中で今も水路は現存し所々に「かわと」も残っている。集落内は静寂で中心近くの道路が多目的に使えるように道幅の広い箇所があり、立派な門構えの旧家が立ち並んでいた。

□小津漁協脇のピット

□水路　赤野井湾方向を望む

□旧家が立ち並ぶ赤野井集落

■ 10 月 10 日(日)　10:30-12:00　参加者　5 名

①活動先:　県立琵琶湖博物館

②活動目的:

博物館主催の「わくわく知恵さがし・楽しく学び合い(講座)への出席。

「水と暮らしの研究会」の取組み活動の一部をセミナーで紹介し、身近な自然にかかわる保全活動や水質調査、自然と人々の暮らしの知恵を学び合う一助として参画した。

③発表内容:

1)　今回は「水と暮らしの研究会」が本年度にまとめた「古人の想い　湧水を巡る」と題し、現行調査先 201 箇所 192 地点の、各分類状況結果、簡易ではあるが各箇所での水質検査結果のまとめを披露した。

【活動予定】

・立案中

本稿の執筆者　小篠

(25) 海浜植物守りたい　【活動報告日の活動会員数(のべ)　19 名 】

グループ代表アドレス:　hashi-kaihin@biwahaku.jp　グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

＊令和 3 年 10 月 5 日(火)　9 時 30 分～11 時 30 分

天候:晴れ　気温:27℃　参加者:8 名

観察状況

＊すっかり秋空でさわやか。緊急事態宣言明けの初めての作業日。
波も穏やかで水は澄んでいる。水位は低い。
対岸の山は少しかすんでいる。しかし作業後にはすっきり見えた。

＊アメリカネナシカズラは 1 か所となりどうやら種を落として枯れたらしい。

＊どんぐりがたくさん落ちている。アリジゴクもあちこちに見られた。

＊保護区、浜には雑草がいっぱい繁茂していた。

活動内容

1. ミーティング　久々の全員集合。
2. 保護区内、浜の除草作業。
   (コマツヨイグサ・アキノエノコログサ・オオフタバムグラ等)
3. 保護区南側の除草作業。
4. 松の木の伐採。(1 本)
5. アメリカネナシカズラの駆除　。(1 か所)

海浜植物

①ハマエンドウ　:　新葉が大きくなり葉も広がってきた。一方、枯れた茎も見られる。適度にチガヤに囲まれた場所は葉も大きい。今回はチガヤを適度に残し雑草はとることにした。

②ハマゴウ　　:　全体的に葉は枯れている。枝も枯れはじめ種をつけている。(昨年と比べると今年は早い気がする)

③ハマヒルガオ　:　浜欠際には根がむき出しになっていた根から青葉が出て大きくなっている。

①ハマエンドウ

②ハマゴウ

③ ハマヒルガオ

＊令和 3 年 10 月 15 日(金)　9 時 30 分～11 時 30 分
天候 ： 晴れ　気温 ： 21℃　参加者 ： 5 名

観察状況
＊すっかり秋空で日陰はさわやか。波も穏やかで水は澄んでいる。伊吹山もはっきり見えていた。
＊アメリカネナシカズラは 50cm 四方で 2 か所に有り。白い花をいっぱい咲かせていた。

活動内容
1. ミーティング
2. 保護区内、浜の除草
   (コマツヨイグサ・アキノエノコログサ・オオフタバムグラ等)
3. 保護区南側の草刈り
4. アメリカネナシカズラの駆除 (2 か所)

海浜植物
①ハマエンドウ ： 前回と同じで新葉が大きくなり葉も広がってきた。一方、枯れた茎も見られる。
②ハマゴウ ： 全体的に葉は枯れ沢山の種をつけている。
③ハマヒルガオ ： あちこち葉だけが見える。

びわ湖水面はさらに下がり－39cm

アメリカネナシカズラ

＊令和３年 11 月２日(火) ９時 30 分～11 時 30 分
天候 ： 晴れ　気温 ： 20℃　参加者 ： ６名

観察状況

＊秋の深まりを感じる琵琶湖。北西の風が少し冷たく感じる。波が押し寄せ水も少し濁っている。水位は一段と低くなった。どんぐりやセンダンの実がたくさん落ちている。松林には枯れた松が多いが保護区の中も枯れた松が目立つ。地元の方がベンチを２個設置してくださった。

今日の琵琶湖　水位－55cm

活動内容

1. ミーティング
2. 駐車場側及び通路確保のための雑木の伐採。
3. 保護区内、浜の除草(コマツヨイグサ・センダンの幼木・チガヤ等)
4. アメリカネナシカズラの駆除 (2 か所)

海浜植物

①ハマエンドウ ： 全体的に元気がなく葉が少なくなり地面が見えてきた。葉に白い斑点が目立つ。虫の食われた？葉もある。しかし、チガヤに囲まれた場所は前回とあまり変わらない。
②ハマゴウ ： 全体的に葉も枝も枯れている。実も茶色くなってきた。
③ハマヒルガオ ： 全体的に枯れている。

①ハマエンドウ

②ハマゴウ

③ハマヒルガオ

3. 生活実験工房からのお知らせ

10 月からは館内のイベントも条件付きで開催可能となり、もち米の稲刈り体験については無事開催することが出来ました。今年度は稲刈り作業の前に少し学習の時間を設け、お米の乾燥に関することを学んでもらいました。天日乾燥と機械乾燥の違いや、カントリーエレベーターの仕組みなど興味を持って聞いていただけました。

11 月には、はしかけグループの「虫架け」さんにお手伝い頂きながら、「秋の生き物を探そう」というイベントを行いました。大型昆虫が観察しづらい季節ということもあり、主に土壌生物の観察を行いました。普段、生活の中で注目することが少ない土壌生物ですが、小さいけれども多様性に富んだ世界であることを知って頂けたと思います。また、その生き物たちが生態系の中でとても大切な役割を担っていることを学んでいただけたと思います。

10/3 稲刈り作業

今後もしっかり感染症対策を行いながら、質の高いイベントを提供できるよう努力して参ります。

【活動予定】

12 月 19 日（日） しめ縄づくり
2 月 6 日（日） わら細工

開催時間 ： 10:30～12:30（受付 10:00～）
場所 ： 生活実験工房

11/21 土壌生物観察

担当：交流係

4. その他の事項

（1）はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

（2）名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

（3）はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

（4）はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人　滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920　FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。